

平成23年行政事業レビューシート (外務省)									
事業名	宇宙環境保全ワークショップ関係経費			担当部局庁	軍縮不拡散・科学部			作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度開始・平成25年度終了予定			担当課室	国際科学協力室			室長 菅宮 真樹	
会計区分	一般会計			施策名	II-1 国際の平和と安定に対する取組				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項			関係する計画、通知等	宇宙基本計画 (平成21年6月2日宇宙開発戦略本部決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国連宇宙空間平和利用委員会(COPUOS。平成24年6月から2年間、堀川康議長)において喫緊の最重要議題となっている「宇宙活動の長期的持続性」(スペースデブリの増加抑制・低減等)に関し、宇宙分野のルール作り及び宇宙ガバナンスの構築に向けた実質的な貢献を果たすとともに、我が国の国際的プレゼンスを強化する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	第19回アジア太平洋地域宇宙機関会議(平成24年11月又は12月、マレーシア)の機会を利用して、同地にて宇宙環境保全に関するワークショップを開催する。参加国は、宇宙先進国及びアジア大洋州地域の宇宙新興国を想定。スペースデブリ、宇宙運用(衝突回避操作)、宇宙天気に関して、それぞれの現状につき情報を共有するとともに、規制面及び技術面の両面における課題と対応策につき議論することにより、問題意識の共有と啓発を行う。また、本ワークショップの終了後、その成果を「宇宙活動の長期的持続性」を審議しているCOPUOSにインプットする。								
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算の状況	当初予算	—	—	—	—	3		
		補正予算	—	—	—	—			
		繰越し等	—	—	—	—			
		計	—	—	—	—	3		
	執行額		—	—	—				
	執行率(%)		—	—	—				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標				単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (24年度)
	1 同ワークショップはAPRSAFの機会を利用して行うため、APRSAFの参加国(昨年は23か国・地域)と同等数程度の参加を目標とする。 2 COPUOS科技小委の「長期的持続性」議題に対する勧告をCOPUOSにインプットするとともに、同議題におけるアジア太平洋地域の意識を向上させる。 3 COPUOS科技小委の場における参加国のステートメントの中で、同ワークショップを引用するよう働きかけ、その意義を広報する。			成果実績	国数				23
				達成度	%				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	20年度	21年度	22年度	24年度活動見込
	宇宙環境保全ワークショップを1回実施。			活動実績 (当初見込み)	ワークショップ開催			( )	1
単位当たりコスト	2,604,000(円/回)			算出根拠	合計:2,604,000円(総額)/1回(開催回数)				
平成23 (単位:千円 年度予算内訳)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由					
	職員旅費	0	894						
	会議費	0	1,371						
	通信運搬費	0	339						
計	0	2,604							

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途、費目・	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>宇宙の開発利用は各国の軍事・安全保障のほか経済社会にも大きな利便性をもたらしているが、近年、宇宙デブリ数の急増に伴い人工衛星等の宇宙活動の安全性が脅かされているため、宇宙環境の保全是宇宙活動国・利用国の最大関心事となっている。</p> <p>宇宙空間平和利用委員会(当省が主務官庁)の下の作業部会がこの問題を検討中であり、2014年までに報告が提出される予定。また、我が国が擁立した邦人候補が2012年6月から2年間、同委員会議長を務め、別の邦人専門家が専門家会合の議長を務めることとなっている。このように我が国は宇宙環境保全の分野で大きな貢献を果たせる絶好の機会を迎えていることから、本件ワークショップの開催は時宜を得たものであり、また、その成果を同委員会にインプットできれば大きな貢献につながる。</p> <p>本件ワークショップは、上記ワーキンググループの下に設置されている4つの専門家会合のうち2つの専門家会合で取り扱う宇宙デブリ及び宇宙天気を主として議論し、意思疎通と今後のルール作りに向けた地歩堅めを行うことが目的。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
	－		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			